

松井田城址見学のポイント

- A, S字状空堀 山城らしい景観が見事である。侵入した敵兵を前後左右から攻撃できる。
- B, 水の手 ここに溜めた水を滑車で上の曲輪(くるわ)に引き上げて使用した。石垣の一部が残っている。
- C, 大手道 大手虎口(こぐち)と本丸を結ぶ重要登城路で、高梨子方面(大手)に向かって、多くの曲輪や堀切りが進んでいる。
- D, 扇子門(せんすもん)より終(ひいらぎ)尾根に向かう道
この道沿いに多くの曲輪、堀切り、空堀(からぼり)、堅堀(たてぼり)がある。
- E, 武者だまり 堀切りの内側が更に掘られていて、西に廻ると広い腰曲輪がある。
- F, 連続堅堀 6本の堅堀(たてぼり)が欽状(うね状)に掘られている。
- G, 扇子門跡 本丸の直下にある。木戸の跡らしい石組が残っている。
- H, 連続空堀 土塁(どるい)と空堀(からぼり)を交互に並べて敵兵を防いだ。
- I, 二の丸 北側に土塁がよく残っている。西端に櫓(やぐら)が有った。
- J, 馬出し 戦国時代(中世)の山城としては、余り例を見ない立派な馬出しである。築城技術の進歩がうかがわれる。
- K, 本丸 大道寺駿河守政繁の時(天正15年頃(1587)・16世紀)に大改修された。東北端の櫓台(やぐらだい)跡に虚空蔵堂(こくうぞうどう)が建っている。東南端にも櫓(やぐら)が有ったと考えられる。堅固(けんこ)な虎口(こぐち)跡も見られる。
- L, 大堀切(おおほりきり)と堅堀、枳形(ますがた)虎口跡が見られる。
- M, 15世紀に安中氏が築城した松井田城(現城址の東半分)の中核となった曲輪で、記念碑がある。(= 安中郭)

山城用語解説

松井田城址保存会

- 1 水の手 (みずので) 城の生活用水・水路を呼ぶ。城兵・馬などに無くてはならない水を得る場所。城の生命線の一つ
- 2 大手 (おおて) 城の正面・表口を云う。
- 3 搦手 (からめて) 城の裏口
- 4 曲輪 (くるわ) (＝郭) 山の一部分を削って平にした部分の事。面積は大きく、防衛ラインを短くする為、丸く作った。城の仕切られた一區画。近世城郭では「丸」(一城別郭…城としては一つだが、中に曲輪が複数設けられている城郭を指す)
- 5 本丸 (ほんまる) 城の中心となる曲輪。城主を中心とする戦闘司令部がおかれた。
- 6 二の丸 (にのまる) 本丸の次に重要な曲輪。
- 7 帯曲輪 (おびくるわ) 曲輪を取り囲む細長い一段低く設けられた曲輪。
- 8 腰曲輪 (こしぐるわ) 斜面に造られた小さな曲輪。山腹に削平地を設けたもの。敵を誘い込み、上の郭から攻撃(掃射)する。
- 9 虎口 (こぐち) 城の出入口。敵の侵入を防ぐ工夫が見られる。出来るだけ小さくする。
- 10 馬出し (うまだし) 虎口を守る為、虎口の前に土塁・堀を設け城兵の出入りの確保と敵の侵入を防ぐ設備(曲輪) *■ 山城では、珍しい。
- 11 堅堀 (たてぼり) 空堀。斜面に上下方向に掘った空堀。物資の引き上げや、敵の横移動を阻止し、大石を上から落とす攻撃に使われた。
● 連続堅堀(れんぞくたてぼり)…松井田城址のポイント構造物。6本の堅堀が連続する。
- 12 空堀 (からぼり) 水の無い堀。敵兵が郭(曲輪)に近づけない様に、堅固な造りである。また城兵の通路に用いる場合がある。
● 連続空堀(れんぞくからぼり)…松井田城址のポイント構造物。土塁と空堀を交互に並べて敵の攻撃を防いだ。
- 13 堀切 (ほりきり) 尾根をナグで切った様に堀切り、敵の侵攻を防ぐ構造物。
- 14 土塁 (どるい) (=土居) 城を守る為の土手。攻守に利用する構造物。
- 15 櫓 (やぐら) 敵情視察や射撃の為、城内の高所に組み立てた建物。
- 16 縄張り (なわばり) 城の設計をする事。(縄を張って築く位置を決めていたので…)
- 17 武者屯 (むしゃだまり) 虎口の近くに設けられた施設で、城内から打って出るときの為、待機する場所。